



2nd Proficiency Test JAPAN Meeting



戦略イニシアティブ(研究拠点提案型) H23~H25
ALL TSUKUBA NETWORK
for Catchment Water Environment Study Focusing on Natural Symbiosis and Sustainability
オールつくばの連携による持続可能な流域圏水環境研究拠点



H24年度科学研究費補助金(新学術領域研究:研究領域提案型)
ISET-R
INTERDISCIPLINARY STUDY ON ENVIRONMENTAL TRANSFER OF RADIONUCLIDES FROM THE FUKUSHIMA DAIICHI NPP ACCIDENT
福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究



筑波大学
University of Tsukuba



γ 線スペクトロメトリーは、近年、装置のスペック改善や、様々な解析ソフトでの容易な操作の実現化により幅広く普及している。しかし、その手軽さゆえに十分な知識や注意がないまま試料測定が行われ、その値が独り歩きしてる場合も少なくない。特に昨今の原発事故の影響により、これまで一般に扱われなかったような環境試料の測定や多機関での相互比較が必要な場合は細心の注意が必要である。

2013年4月～5月に、筑波大学-IAEAの協力による第2回 Proficiency Test が開催された。今回は、前回よりも参加機関が増え、全49機関が環境試料を用いたスタンダードの測定値の相互比較を行った。

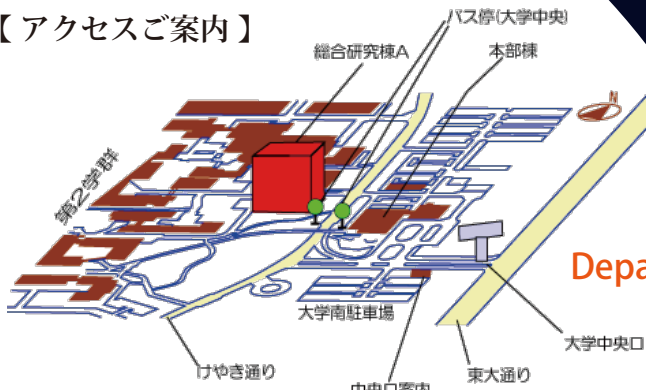
今回 IAEA の PT 担当者 Sandor Tarjan 氏を日本に招聘し、筑波大学にて技能試験の結果報告および技術指導のための会合を開催する。

- LECTURER - DR. SANDOR TARJAN

Reference Materials Specialist,
Terrestrial Environment Laboratory
Seibersdorf Laboratory
International Atomic Energy Agency (IAEA)

IAEA 陸域環境研究所, サイバースドルフ研究所,
国際原子力機関 (IAEA)

【アクセスご案内】



- 秋葉原駅からつくばエクスプレス
→つくばエクスプレス乗車、つくば駅下車、バスターミナル
「筑波大学中央」または「筑波大学循環」行きバス乗車(15-20分)、
バス停「筑波大学中央」下車
- 東京駅から高速バス(高速バス乗り場2番バス停)
→東京駅八重洲南口から「筑波大学」行きバス乗車(約75分)
「筑波大学」(終点・バス停「筑波大学中央」と同じ位置)下車
- 大学構内案内 本専攻がある総合研究棟Aは筑波大学の北地区に当たり、
第2学群の東側、本部棟の西側に位置します。
バスでお越しの方は「筑波大学(中央)」バス停で下車後、徒歩0分です。

Place:
筑波大学 総合研究棟 A110
Department of Integrative Environmental Sciences A-110

Date:
2014年3月18日(火) 16:00-19:00
Mar.18 (Tue), 2014 16:00-19:00

more info: 筑波大学 生命環境系 教授 恩田裕一 029-853-4226